Ｎｏ．６　：カメムシ防除のポイント
期　　間　令和４年８月４日～５日

岩　手　ふ　る　さ　と　米　栽　培　資　料

発行：岩手ふるさと農業協同組合
監修：奥州農業改良普及センター

１か月予報（7/30～8/26までの天候見通し）

令和４年７月２８日発表

	コメント	気温	降水量
１週目 (7/30～8/5)	期間のはじめは高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、その後は気圧の谷や湿った空気の影響で、曇りの日が多く、雨の降る所があるでしょう。	高い	平年並
２週目 (8/6～12)	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	高い	
３～４週目 (8/13～26)	天気は数日の周期で変わるでしょう。	高い	

※天気予報は日々変わりますので、テレビ等で毎日確認しましょう。

■単収・食味 UP を目指して

～登熟初期の高温時は、夜間かんがい等で白未熟粒の発生を防ぎましょう～

①水　管　理：出穂～開花期は、圃場を乾かさないように浅水管理を行いましょう。
　　登熟期は、間断かんがいを実施し、根の活力を保ちましょう。
②いもち病対策：こまめに圃場を巡回・観察し、発病を確認した場合は治療薬剤で防除しましょう。
③カメムシ対策：薬剤防除（スタークル剤）は適期に行いましょう。

稲の生育状況

気温、日照時間は概ね平年並みに経過しているため、平年並みの生育となっております。

水稲展示圃の生育状況（ひとめぼれ）　　茎数は１株当りの本数

７月２５日調査	草丈（cm）	茎数（本）	葉数（葉）
令和４年	76.7	20.0	12.3
平年値	78.8	24.2	12.2
平年対比	97.3%	82.6	100.8

水管理　ポイント①：出穂～開花期までは浅水管理を行いましょう。

登熟期は間断かんがいを実施し、根の活力を保ちましょう。

※早期の落水は、収量・品質面に悪影響を及ぼしますので注意しましょう。

生育時期	出穂～開花期	登熟期		登熟後～稲刈り前	
水　深 ５cm ３cm	浅水管理	間断かんがい		落水	
ポイント	出穂～開花期は、水を必要とするので受粉障害が発生しないように田面を露出しない（３～５ｃｍ程度の浅水管理とし、落水状態は避ける）	出穂後１０日位	出穂後１０日以降	稲刈り前の落水	
		間断かんがい（１日入水、2～3 日自然落水）	間断かんがいとし徐々に落水期間を長くする。田面が湿っている状態を保つ。（土に十分水が含まれている。）	排水が良い	排水が悪い
				出穂後３５～４０日	出穂後３０～３５日

◆高温登熟障害対策

穂揃い後～登熟初期にかけ、**日中の気温が３０℃以上（夜間２３℃以上）の高温が続く場合は、乳白粒・胴割れ粒等の高温障害が懸念されます。**

高温障害を回避する為には、入水を日中に行わず、夜間に行う「間断かんがい」がポイントです。

夜間の入水や掛け流しにより水温の上り過ぎを抑え、根の活力維持・地温の低下に努めましょう。

①ひたひた水程度の浅水での常時湛水管理は、根腐れや稲の消耗を招き登熟の妨げとなるので行わない。

②大区画圃場での掛け流しは圃場内の水温ムラが起きやすいので、入水量にメリハリをつけた間断かんがいをお勧めします。

③用水確保が困難な圃場については間断かんがいとし、田面を乾かさない程度の湿潤管理としてください。

いもち病対策

ポイント②　こまめに圃場を巡回・観察し、発病を確認した場合は治療薬剤で防除しましょう

７月以降、ふるさと管内でも葉いもちの発生が確認されています。圃場をよく巡回観察し、発生を確認したら直ちに治療薬剤の茎葉散布を行いましょう。薬剤を使用した場合は、特別栽培米から外れ、ふるさと純情米となりますが、**発病を確認した場合は防除を最優先してください。**

また、いもち病の発生を確認した場合には、ＪＡまでお早めにご相談願います。

特別栽培米登録生産者の方の茎葉散布時はＪＡ及び生産履歴現地責任者へ連絡願います。

参考：茎葉散布剤（治療剤）使用時期・回数の制限がありますので、ご注意願います。

薬　剤　名	防除のタイミング	使用時期	使用回数	散布量/１０ａ
ブラシン粉剤ＤＬ ブラシンフロアブル	発生を確認したら散布。 状況に応じて２回目は１回目から７日～１０日後に散布。	収穫７日前まで	２回以内	＊粉剤　3～4kg ＊フロアブル 1,000 倍液 60～150ℓ

斑点米カメムシ類対策

1．発生概況

アカスジカスミカメ第２世代成虫の発生時期は平年より早く、発生量は**「やや多」**の予報となっています。また、水田畦畔における**斑点米カメムシ類の発生圃場率は平年よりやや高い**状況となっております。地域の生育ステージをよく確認し、適期防除を実施しましょう。

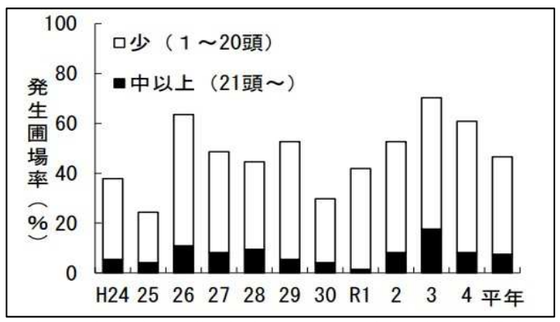

図１：斑点米の原因となるｶｽﾐｶﾒﾑｼ類の発生ほ場率
（7 月下旬巡回調査、水田畦畔、往復 20 回振）
（令和４年度農作物病害虫防除速報 No.12　R4.7.28）

写真　イタリアンライグラスに寄生するアカスジカスミカメ（成虫）

２回防除の実施（特別栽培米を除く）でカメムシ被害を無くしましょう！！

天気予報と体調をチェック　涼しい服装・安全な作業環境　こまめな水分補給こまめな休憩　農作業時の熱中症に注意しましょう！！

参考：カメムシすくい取り調査結果（水稲展示圃　８月２日午前調査）

調査地点	アカスジ	アカヒゲ	幼虫	その他	調査地点	アカスジ	アカヒゲ	幼虫	その他
白鳥（水田）	0	0	0	0	白山（水田）	2	1	0	0
白鳥（畦畔）	0	0	0	0	白山（畦畔）	0	1	0	0
前沢平場（水田）	3	0	0	0	母体（水田）	0	0	0	0
前沢平場（畦畔）	0	2	0	0	母体（畦畔）	0	1	0	0
古城高台（水田）	1	0	0	0	赤生津（水田）	0	0	0	0
古城高台（畦畔）	0	0	0	0	赤生津（畦畔）	0	0	0	0

２．薬剤防除の適期

ポイント③：薬剤防除（スタークル剤）は適期に行いましょう。

注意点　**薬剤の散布適期＝穂揃期頃（粒剤）、穂揃期１週間後頃（粉剤・液剤）**

■出穂の判断のしかた

①まず、１本の茎をながめてみましょう。右図のように止葉の下から、**籾ひとつでも顔を出したら、その茎を「出穂した」と判断します。**

②つぎに、株ごとに観察してみましょう。１株の茎数を数えてみて、うち何割が出穂しているかを調べます。これが「出穂割合」になるので、数株調査し見本にします。

③つぎに圃場全体について、出穂割合がわかっている株と見比べて、圃場全体の茎数のうち、だいたい何割が出穂しているかを推定します。

圃場の出穂割合(出穂した茎数／全茎数(%))と出穂ステージ区分

出穂割合	１０～２０％	４０～５０％	８０～９０％
ステージ	出穂始期	出穂期（出穂盛期）	穂揃期

※圃場全体の全茎数のうち、何割出穂しているかで、各ステージを判断します。

★参考・令和４年生育ステージ到達の実態(予測)と薬剤散布日目安（８月１日現在の予測）

地区	出穂期（４０～５０%）	穂揃期（８０～９０%）	カメムシ薬剤一斉散布日
前沢平場	７月29日頃	７月31日頃	８月７～10日頃
前沢高台	７月28日頃	７月30日頃	８月６～11日頃
古城平場	７月26日頃	７月28日頃	８月４～９日頃
古城高台	７月28日頃	７月30日頃	８月６～10日頃
白山	７月26日頃	７月28日頃	８月４～９日頃
生母平場	７月29日頃	７月31日頃	８月７～10日頃
生母高台	７月29日頃	７月31日頃	８月７～11日頃

地域一斉防除でカメムシの逃げ場をなくそう！

■地域一斉防除のメリット

①地域全体のカメムシ密度を減らすことができる。

②地域全体の薬剤散布が短期間ですむほか、一斉散布日を決めることによって、農薬飛散防止・危被害対策の地域連携がとりやすくなる。

例：周辺の農作物・家畜の保護・住宅地の対策等、期日を明確にできる。

薬剤は圃場全面に散布しましょう！

①カメムシは飛翔能力があるため、圃場の中まで侵入しています。このため、**圃場の周辺部分の散布のみ（いわゆる額縁防除）では、防除効果が劣るので、必ず圃場全面に薬剤を散布しましょう。**

②畦畔・法面はカメムシの重要な発生源です。よって、散布は本田だけでなく、**水田畦畔・水田に接する法面・休耕田(調整水田)も確実に散布しましょう。**

３．本田の薬剤防除　　下記薬剤のいずれかの剤系を選択し防除を行いましょう。

栽　培　区　分	薬剤名	防除時期	散布量/10a
特別栽培米（１回防除）	スタークル粉剤 DL	穂揃期１週間後	3kg
	スタークル液剤 10		1000倍　60～150ℓ
	スタークル粒剤	穂揃期（出穂期から３～５日頃）※	3kg
	スタークル１キロH粒剤		1kg
ふるさと純情米（２回防除まで）	スタークル粉剤 DL	１回目　穂揃期１週間後 ２回目　１回目から２週間後	3kg
	スタークル液剤 10		1000倍　60～150ℓ
	スタークル粒剤	穂揃期（出穂期から３～５日頃）※	3kg
	スタークル１キロH粒剤		1kg

※粒剤は湛水で散布（水深３cm程度）、散布後４～５日は水を移動させないでください。

※本田内雑草が多くカメムシの発生が多い圃場では粒剤は使用しないでください。

特に以下のようなケースの場合は２回防除を実施してください。

①ここ数年、カメムシ被害による落等が多い。

②水田畦畔・法面・河川敷等の雑草、イネ科牧草の刈り残しがある。

③カメムシの発生源となる水田雑草(ヒエ・ホタルイ・シズイ等)が多い。

※水田雑草（ヒエ・ホタルイ・シズイ）が多い場合、薬剤防除前に抜き取りをしましょう。

アカヒゲ成虫　体長5~6mm

注意!!　出穂期が早まった場合、カメムシ剤の散布時期も早まりますので、ミツバチへの農薬危被害対策として、周辺の養蜂家への通知、御配慮の徹底をお願いします。

４．畦畔の草刈について

出穂直前～出穂後の草刈は、カメムシを本田内に追い込み被害を助長する恐れがありますので**８月中の草刈は行わないようにしましょう！**

■水稲の栽培、農薬使用等に関するお問い合わせは…

平日　午前８：３０～午後５：００

前沢地域センター営農経済課	TEL：56-2152　有線：3753
営農アドバイザー携帯電話	①090-4478-9931 ②090-4478-9930 ③090-4478-9914

■生産資材・生活資材のご注文・配達は…

「拠点配送センター」　TEL：0120-516-911（必ず0120から入力してください）

■生産資材等の直取り・窓口供給は…

「前沢資材センター」　TEL：56-2238　有線：3711

平日営業時間：午前８：３０～午後５：００

休日営業時間：6～10月　毎週土曜日　午前８：３０～正午

※期間を通し日曜日・祝祭日は休業いたします。

LINEにて営農情報を発信しています！
上記QRコードからお友達登録をお願いします。
※QRコードを読込めない場合は、「@703kysml」で検索をお願いします。

■奥州エフエム（77.8MHz）では毎週月曜から金曜日午前７：52からと午後５：42から営農情報や緊急情報を放送しています。是非、ご視聴よろしくお願いします。

★次回の指導会は、９月８日（木）・９日（金）に開催予定です。

内容：適期刈り取り・乾燥調製のポイント、令和５年用春肥料・水稲農薬・水稲種子等申込書について

栽培履歴（作業内容・農薬名・肥料名・散布日・使用量など）の記帳と、ＧＡＰチェックシートのチェックを忘れずに行いましょう!!